

令和7年度 第3回岡崎城跡整備委員会会議録

開催日時：令和8年1月28日（水）午後2時00分～午後4時00分

開催場所：岡崎市役所 福社会館 202 会議室

出席委員：5名

瀬口哲夫委員長・杉野丞委員・丸山宏委員・奥田敏春委員・荒井信貴委員

欠席委員：三浦正幸委員・中井均委員

説明のために出席した事務局職員：9名

社会教育課：柴田英代課長・浦上大助副課長

遠藤研吾岡崎城跡係係長・久野千秋主事・平山優主事

二村優里奈事務員

都市基盤部：本多徳行専門監

公園緑地課：津呂幸治計画整備係係長・近藤淳公園活用係係長

傍聴者：あり（1名）

次第

議題

（1）岡崎城跡（岡崎城公園）植栽管理計画サクラ管理計画編の実施内容について
報告

- （1）岡崎城跡龍城堀の看板設置について
- （2）龍の井の修繕について

議事内容

（1）岡崎城跡（岡崎城公園）植栽管理計画サクラ管理計画編の実施内容について
事務局：配布資料1に基づき説明

【質疑応答】

委員：サクラの種類は何か。

事務局：エドヒガンザクラである。

委員：エドヒガンザクラは苗が入手しづらい。エドヒガンザクラだけでなく他の樹種を植えてもよいと思う。また、サクラとサクラの間隔は10m確保しているのか。植えるにあたって土壌改良をどのように考えているのか。元々植わっていた場所は改良しないと育たないのではないか。今回伐採する常緑樹はなにか。

事務局：スタジイである。

- 委員：スダジイを伐採したら新芽が出てくるので処理を考えておいた方がよい。弘前城に視察に行った職員がいると思うが、弘前城のようにその後の管理についてマニュアルを作成したほうがよい。一気に行うのは難しいと思うので、どこを先行して行うか考えるべき。
- 事務局：樹種について、計画を立てた当初は、ソメイヨシノの代替であるジンダイアケボノを予定していたが、文化財保護審議会で「城跡にふさわしいのはエドヒガンザクラだ」との指摘を受け、変更した。ただ、エドヒガンザクラの苗木が少ないことは確かなので、場所によってはヨウコウザクラなど違う樹種のサクラを植えることも検討していきたい。
- 委員：一種類に決めてしまうのも面白くないと思う。花期を長く考えると柔軟に対応してもよいと思う。
- 事務局：樹間については、10mを基本に考えている。ただそれだと植えた直後は寂しく見えてしまうおそれがあり、寄附をもとに植樹したという看板を設置する予定である。サクラの植樹だけでなく樹木伐採の費用も含んでいるが、岡崎城跡全体の樹木管理という意味で行う。
- 委員：お金をかけて樹木管理するのであれば、植樹の数や土壌改良など資料を持っておかなければならない。土壌改良については、点的にそこだけ行うのではなく面的に行うべき。
- 事務局：予算の範囲内で行っていきたい。
- 委員：資料1-5-2の「本丸からの眺望」は何の眺望を指しているのか。
- 事務局：本多静六博士の大正期の設計のなかに、公園の外苑は常緑樹で囲って外界との遮断をするとある。このエリアはそれが踏襲されているようで、どれだけ遮断されているのか検証した。
- 委員：写真番号1のスダジイを伐採すると、向こうの建物が見えることになる。それは本多静六の意図とは異なるがよいのか。それを確認するためにも写真は従前従後で撮っておいてほしい。
- 事務局：本多静六の設計では、この場所はサクラ並木にするとあるので、意図とは異なる。
- 委員：伐採した後、苦情が出る可能性はないのか。
- 事務局：あると思う。
- 委員：それであれば、苦情が出る前に市としてサクラ植樹のため伐採することを周知すべき。岡崎城の石垣とサクラを行政として管理していくことを言うべき。行政として説明責任を果たさなければならない。
- 事務局：伐採をするという看板を設置して周知していく。
- 委員：資料1-5-2の濃緑に塗ってある場所の木を伐採するのか。
- 事務局：濃緑は残る。薄緑の場所を伐採する。

- 委員：濃緑で伐採を行うと、背後の店舗が見える。伐採する時気を付けなければならぬことは、見通しがよくなると乱雑な風景が見えるのではないか、ということ。電柱を地下に埋設することはできないか。埋蔵文化財との兼ね合いはどうか。
- 事務局：場所によって変わる。
- 委員：その場所の検討だけしておいて、整備の段階で実施できるか深めればよい。
- 委員：整備の全体像を考えるべき。今は全体計画のために個別の試掘を行っているような状況。今回は植樹のために狭小な面積で試掘しているが、もう少し長く掘れば堀の肩にあたるかもしれない。その積み重ねで、主要な遺構があるかないかの確認はでき、ない場所は地中化が行える可能性もある。
- 委員：全体計画についてはよく話に出るが、個別の問題がないと全体的に気が付かないし、話が及ばないこともあるので、期限を定めて今後検討してもらいたい。
- 事務局：整備基本計画について、見直す時期に来ていることは承知しているのでそれも踏まえて考えていきたい。
- 委員：写真7は、伐採すると向こうにマンションが見える。マンションは景観を阻害するが、都市計画には認識されていないもしくは街づくりでは許容されている。視界を防衛するためには、本多静六が言うように遮蔽の蹂躪を確認したほうがよい。二の丸でもマンションが見えるが、岡崎城に来た人があれをどう思うのか。ないほうがよいと思う。いつも見ている風景だと感覚が麻痺しているので、今後は遮蔽という視点も持って検討してほしい。
- 委員：東曲輪の伐採木No.1～3は本当に伐採するか検討していると言っていたが、その理由を教えてほしい。
- 事務局：遺構面が今のGLから40cmくらい下もしくは30cmを切っている場所もあるので、それを考慮するとかなり盛土することになる。これを行うには予算が不足するという点と、施工方法も再検討が必要と判断したため。当初は東曲輪に3本植える計画で施工図面も作成したが、遺構調査の結果から、今年度は見送りすることとした。
- 委員：この図面の通り施工しようと思うと、基底3mで盛土の周囲にレンガが並ぶ。これは景観を考えた時に非現実的ではないか。
- 事務局：駐車場の入り口にクスノキがあるが、あれと同じようなイメージである。ただやはりやり方の工夫は必要だと思っている。

報告

(1) 岡崎城跡龍城堀の看板設置について

事務局：配布資料2に基づき説明

【質疑応答】

委員：岡崎城公園全体のサイン計画は決まっているのか。統一的な規格は決まっているのか。

事務局：まちづくり推進課が計画を作成している。規格も決まっている。

委員：看板はなるべく寝かせてほしい。立たせると背後の景観を阻害する。車いすの人も見やすい設計にしてほしい。

(2) 岡崎城跡龍城堀の看板設置について

事務局：配布資料3に基づき説明

【質疑応答】

委員：読み方は「たつのい」ではないか。

事務局：市の紹介では「りゅうのい」との読み方であった。

委員：根継ぎするのか。柱をすべて変えた方がよいのではないか。

委員：写真を見ると、掘立柱では。

事務局：基礎があるかないか資料が無くて分かっていない

事務局：現地を確認し、柱の周りにコンクリートがあることが分かった。

委員：周りがコンクリートなら水が溜まってまた腐ると思う。構造が分かっていないのに発注してよいのか。

委員：土の中に柱が埋まっているから、それを掘立と呼ぶ。土の中に木がそのまま入っていると腐る。現在の柱がコンクリートから立ち上がってればよいが、土から立ち上がっている。どのような復旧方法がよいか専門家に聞いた方がよい。また、この井戸が文化財的な取り扱いであれば文化財保護審議会に諮問が必要である。

事務局：文化財としての取り扱いではない。

委員：文化財ではないのなら耐久性のある仕様で発注したほうがよいと思う。